

臨時理事会を開催

平成19年5月25日、社団法人電池工業会臨時理事会が開催された。

議題

- 1) 臨時総会議題
 - 第1号議案 平成18年度収支計算書（案）承認の件
 - 第2号議案 理事・監事の選任の件
- 2) 臨時理事会議題
 - 第3号議案 会長・副会長・専務理事・常務理事の互選の件
 - 第4号議案 会員の入会の件

総会の議案表決結果は、

- 1) 第1号議案は、提案とおりに承認された。
- 2) 第2号議案は、提案とおりに下記の理事・監事が承認された。

任期：平成19年5月25日～平成21年3月末日

		理事・監事	
	氏名	社名・役職	備考
理事	本間 充	三洋電機株式会社 取締役 専務執行役員	重任
理事	大内 秀夫	東芝電池株式会社 代表取締役社長	重任
理事	臼井 正信	新神戸電機株式会社 代表執行役社長	重任
理事	近藤 正嗣	松下電池工業株式会社 代表取締役社長	重任
理事	杉野 一夫	社団法人電池工業会	重任
理事	角田 義人	日立マクセル株式会社 代表執行役社長	重任
理事	岡 英雄	NECトーキン株式会社 取締役	新任
理事	佐々木 毅	株式会社エスアイアイ・マイクロパーツ 代表取締役社長	重任
理事	永田 旭	FDKエナジー株式会社 代表取締役社長	重任
理事	村上 修三	三洋ジーエスソフトエナジー株式会社 代表取締役社長	重任
理事	依田 誠	株式会社ジーエス・ユアサ コーポレーション 代表取締役社長	重任

理事	小森 良孝	シック・ジャパン株式会社エナジャイザーカンパニー 事業部長	重任
理事	花房 隆臣	ソニー株式会社 エナジー事業本部 本部長	重任
理事	杉原 和朗	富士フイルムイメージング株式会社 代表取締役社長	重任
理事	内海 勝彦	古河電池株式会社 代表取締役社長	重任
理事	岡田 奎司	株式会社三菱電機ライフネットワーク 代表取締役社長	重任
監事	澤田 昌司	株式会社日立リビングサプライ 情報家電商品部 部長	重任
監事	鎌田 進	株式会社プロジェクト21 代表取締役社長 税理士	重任

理事会の議案表決結果は、

3) 第3号議案は、提案とおりに下記の会長・副会長・専務理事・常務理事が承認された。

任期：平成19年5月25日～平成21年3月末日

会 長	理事 本間 充
副 会 長	理事 大内 秀夫
副 会 長	理事 臼井 正信
副 会 長	理事 近藤 正嗣
専務理事	理事 杉野 一夫
常務理事	理事 角田 義人

4) 第4号議案は、提案とおりに下記の賛助会員が入会を承認された。

会員名	会員代表者
株式会社中越黒鉛工業所	神島 喜與一（代表取締役）

小関嘉明氏「IEC推進会議 議長賞」を受賞

IEC活動において多大な貢献をされた小関嘉明氏（松下電池工業株式会社）が、去る5月24日ホテルニューオータニ東京で行われた表彰式で、「IEC推進会議 議長賞」を受賞されました。



アルカリボタン電池

負極に亜鉛粉（Zn）、正極に二酸化マンガン（ MnO_2 ）、電解液にアルカリ水溶液（ KOH 等）を用いるボタン電池を、アルカリボタン電池と呼んでいます。

電池反応はアルカリマンガン乾電池と同じで、ボタン形電池としている点が特徴に挙げられます。

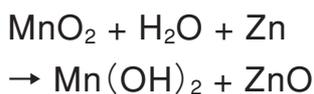
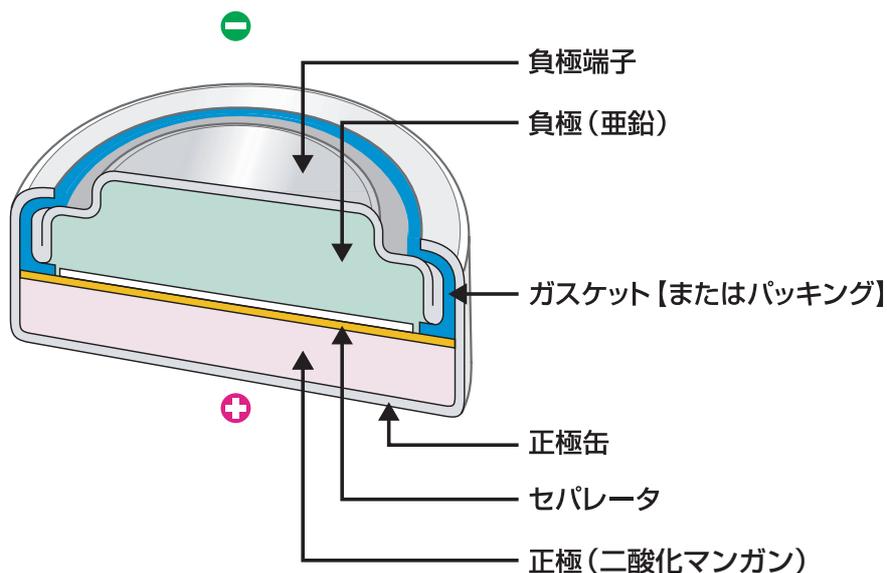
1979年の銀の高騰により、それまで酸化銀電池を使用していた電卓、ゲーム関連の商品は一斉に代替電池を使用するようになりました。その代表がサイズのすぐ切り替えられるアルカリボタン電池でした。

アルカリボタン電池は、放電電圧がS字に変動するにもかかわらず、材料が安価なため酸化銀電池等の安価版として、1977年から国内メーカーにより生産販売されるようになりましたが、上述の

ように銀の高騰により1979年以降は酸化銀電池に取って替わって急増しました。しかしながら、電卓の大部分が太陽電池に切り替わっていたためと、ゲーム機もテレビ画面を使用するタイプになっていったため、小形のゲーム機はほとんど無くなってしまい、アルカリボタン電池の需要も激減していきました。

しかし、その価格の安さから、現在でも腕時計、置時計の一部や、メロディー電報の電源などに使用されています。

電池系記号は、アルカリマンガン乾電池と原理が同じなのでLが用いられ、LR44、LR43、LR41、LR1130、等で表されます。Lはアルカリ・マンガン電池を、Rは円形を、数字は電池の形状寸法を表しています。



(図1)アルカリボタン電池の構造図

平成19年5月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議他	10日(木)	バッテリー賞ワーキンググループ	本年度の開催方法、スケジュール等の審議を行った。
	10日(木)	電池PRキャンペーンワーキンググループ	キャンペーンの方法、スケジュール等の審議を行った。
	11日(金)	多摩でんちまつりワーキンググループ	でんちまつりの実施方法の検討、スケジュールの審議を行った。
	16日(水)	JEA蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備資格審査2件、型式認定17件を審査し、承認した。
	17日-18日	広報総合委員会	5月度定例の広報総合委員会を開催、同時に神岡製錬所見学実施。
二次電池部会	7日(月)	技術委員会	IEC国際会議報告及びIEC検討部会等設置審議、他。
	9日(水)	小形鉛分科会	JISC8702改正案審議、他。JEMA課題検討、他。
	9日(水)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討。
	9日(水)	(上記と合同)電気車用電池リサイクル分科会	電気車用電池リサイクルスキームの検討。
	14日(月)	自動車用鉛分科会	SBAS0101アイドリングストップ車用鉛蓄電池最終案審議。JISD5302改正調査審議、他。
	15日(火)	産業用電池委員会	電池販売実績の確認、他。
	16日(水)	据置鉛分科会	SBAG0340改正案審議、他。
	17日(木)	臨時二次電池部会	小形制御弁式鉛蓄電池、IECコンベンナーの件、他。
	18日(金)	用語分科会	SBAS0405用語改正案とりまとめ審議。改正SBA規格様式改正対補版審査、他。
	18日(金)	需要予測分科会	平成19年度需要見通し作成。
	22日(火)	自動車用電池委員会	自動車用電池リサイクル・スキームの検討、他。
	24日(木)	充電器分科会	浮動充電用整流装置の保守・取扱い指針(SBAG0901)及び浮動充電用整流装置の安全指針(SBAG0902)2007年版の印刷原稿最終確認、浮動充電用サイリスタ整流装置(JISC4402)の改正の趣旨とJIS原案作成公募資料検討。
	24日(木)	二次PL委員会	平成18年度集計報告審議。平成19年度啓発活動審議、他。
	25日(金)	自動車用電池技術サービス分科会	啓発用電池焼損事例集制定審議、他。
	29日(火)	市販分科会	自動車用電池リサイクル・スキームの検討、他。
31日(木)	産業用電池技術サービス分科会	蓄電池設備の劣化診断指針(SBAG0606)2007年版印刷原稿最終確認、蓄電池設備整備資格者講習テキストの内容見直し、今年度以降の討議テーマの検討、他。	
小形二次電池部会	10日(木)	Li二次安全特別委員会	新安全テスト審議、海外規格対応審議。
	15日(火)	ニカド・ニッケル水素分科会	IECニッケル水素規格原案審議、PLガイドライン審議。
	16日(水)	Li二次分科会	IEC他海外規格対応審議、PLガイドライン審議、今後の活動整理。
	18日(金)	再資源化委員会	審議事項が少なくなってきた。JBRCへ活動が集約されてきた。定期開催は08年2月とし、その間は必要に応じて開催する。
	29日(火)	Li二次安全特別委員会	新安全テスト審議、IEC規格提案審議。
	30日(水)	技術委員会	技術特別委員会活動内容審議、各分科会報告審議。
	31日(木)	国際電池規格対応WG	新WGスコープ審議、メンバー確認、各国際規格対応報告。
31日(木)	海外環境委員会	海外環境ガイドブック審議。	
一次電池部会	10日(木)	IEC小委員会	バンクーバー会議関連事項審議、他。
	11日(金)	JIS小委員会	JISC8500J改正審議、他。
	22日(火)	PL委員会	「一次電池安全確保のための表示に関するガイドライン」見直し検討。
	20日-26日	国際会議	IEC/TC35バンクーバー会議に出席(京橋国際幹事・今澤委員長・伊東副委員長)

世界最小クラスのコンパクト設計を実現 高力率負荷に対応した力率0.8出力容量の常時インバーター給電方式交流無停電電源装置(UPS) Acrostar THAシリーズ「THA1000-10」を新発売

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーエレクトロニクス(社長:辻村 耕治、本社:京都市右京区)は、常時インバーター給電方式の交流無停電電源装置(UPS)のAcrostar THAシリーズとして「THA1000-10」を5月16日より発売いたします。

今回発売する、Acrostar THAシリーズ「THA1000-10」は、常時インバーター給電方式UPSにおいて世界最小クラスのコンパクト設計を実現し、出力容量1000VA/800Wの高力率負荷に対応した、縦置き/横置き兼用UPSです。

【用途】 サーバー、外部記憶装置(ストレージ)、ネットワーク機器、FA/産業機器

【特長】

1. 世界最小クラスのコンパクト設計

1000VA/800W出力の常時インバーター給電方式UPSでは世界最小クラスの小型化を実現。

2. 高力率負荷対応の1000VA/800W

力率改善回路を搭載した高容量の電源機器に対応する。

3. 幅広い入力電圧範囲

幅広い入力電圧に対応。バッテリー運転への切り替えを軽減し、バッテリーの消耗を防ぐ。

入力電圧変動範囲	摘要
132V	上限値
70~85V	下限値(負荷率0~100%、リニア変動)

4. スイッチカバー、抜け止めコンセントを標準装備(4個)

万が一の時の誤操作やプラグが抜けてデータが消去するといった障害を防ぎ、安心で確実な電源供給を実現する。

【仕様】

型 式	THA1000-10		備考
交流出力	容量	1000VA/800W	
	運転方式	商用同期常時インバーター給電	
	相数	単相2線式	
	定格電圧	100V	
	定格周波数	50/60Hz	入力周波数による
交流入力	相数	単相2線式	
	定格電圧	100V	
	電圧変動範囲	132V 70~85V	上限値 下限値(負荷率0~100%、リニア変動)
	周波数	50/60Hz±3Hz	周波数自動切替
	最大入力容量	1000VA以下	
蓄電池	バックアップ時間	10分以上(600W時)	周囲温度25℃、初期特性
	蓄電池充電時間	約4.5時間	
	内蔵蓄電池	小形制御弁式鉛蓄電池	
その他	使用環境	温度(℃)	0~40
		湿度(%)	30~90
	外形寸法(mm)	W143×D395×H222	飛び出し部、ゴム脚を除く、縦横兼用
	質量	16kg以下	バッテリー含む

5. 前面からのバッテリー交換が可能(ホットスワップ対応、ユーザーにて交換可能)

システムを停止することなく、前面から簡単にバッテリーの交換が可能。

6. 省電力動作機能を搭載

接続された負荷容量により自動で省電力のバイパス運転に切り替える省エネ運転機能を搭載、負荷停止時の消費電力を低減する。*出荷時の設定は機能無効。

7. 縦置き/横置き兼用タイプ

床面積・高さ方向に対して、柔軟な設置が可能。

8. 充実したバッテリー自己診断^{*1}機能を搭載

起動時、手動(正面パネル)、自動(UPS管理ソフトウェア)の3パターンでバッテリーの劣化状態を判定。ブザー、ALARM LED、状態表示LED^{*2}で通知することで事前にトラブルを回避する。

また、バッテリー交換時期を過ぎると、充電を停止し、寿命末期のバッテリートラブルを未然に防ぐ。

*1:サーミスターによるバッテリー周囲温度監視

*2:バッテリー寿命残年数(目安)を表示

9. 豊富なオプション

①UPS管理ソフトウェア(Acroware-BasePRO、Acroware-LAN Agent3)

②AS/400(OS/400)UPSサービス対応

これらのほか、UL規格対応モデル、延長用バッテリーボックス、メンテナンスバイパスボックス、簡易固定金具、接点ボード、異電圧対応トランスボックスなどの豊富なオプションを順次発売予定。

【発売日】

2007年5月16日

【年間販売目標】

初年度4,500台

【標準小売価格(税込)】

¥144,900



交流無停電電源装置(UPS)
「Acrostar THA1000-10」

音声警報付大形デマンド表示板で省エネ対策を推進し、 FOMA対応の遠隔監視も可能な 「デマンド監視装置 RMD501シリーズ」を新発売

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーサプライ

株式会社 ジーエス・ユアサ パワーサプライ(社長:依田 誠、本社:京都市南区)は、ビルや工場、施設などで使用する電気エネルギーを低減する省エネルギー対策に貢献し、電力使用量のピーク値を低減することで電気代の節約に効果を発揮する「デマンド監視装置 RMD501」を2007年6月1日より発売します。

【用途】

- ビル、工場、施設などの電気受電設備における省エネ対策、電気代の節約
- 電力使用量の計測および報告書作成支援 (ISO14000対策)
- 地球温暖化対策、省エネ対策用機器

【構成】

デマンド監視装置本体	電柱の配電線を建屋に引き込む際に取り付ける電力計量器に接続する装置(デマンドパルス変換機含む)。
デマンド表示板	電力使用量を常時表示し、あらかじめ設定した電力使用量の目標値を超える可能性がある場合に警報を出力する。

【特長】

1. 現在の電力利用状況を分かりやすく見せる音声警報付大形デマンド表示板で簡単に省エネ

従来品より大きなA4サイズのデマンド表示板は現在の電力使用量を大形LEDでデジタル表示するとともに、目標デマンド値との差異を12段階のレベルメーターで表示するので、電力使用量の現在の状況を分かりやすく表現している。

また、電力会社が30分間の最大デマンド値を計測して電気代が課金されるが、デマンド監視装置は30分間の電力使用量の予想デマンド値を計算し、その予想デマンド値があらかじめ設定した目標デマンド値を超えそうな場合には事前に「デマンド警報」として音声とランプで警報出力し、ユーザーにすぐに伝える。表示板に付いている外部警報端子のデマンド警報出力接点を利用して空調機などの負荷を自動制御す

【参考販売価格】

本体装置と表示板	348,000円	本体装置と表示板 (モバイル通信機能付き)	448,000円
<オプション>特定小電力無線機 一式 (推奨品 高速PLC通信装置 PLCアダプター BL-PA100KT 松下電器産業(株)製)			98,000円

【販売方法】 直接販売、販売店経由

【仕様】

	デマンド監視装置本体	デマンド表示板
外形寸法 (mm)	W157×H69×D230	W270×H32×D200
重量 (kg)	約1.2	約1
材質	ABS樹脂 リサイクル対応品	ABS樹脂 リサイクル対応品

る機能を持つため、電力使用量のピーク値の最大値を下げることで、電気代の節約が可能。

2. 市販の高速PLCが使えるコードレス配線

デマンド監視装置本体と表示板間の信号配線には、従来の特定小電力無線機だけでなく、コンセントに差し込むだけで利用できる市販の高速PLCが使えるLANインターフェースを追加した。通常、電力計量器の近くにデマンド監視装置本体を取り付ける際、既設ビル内の配線あるいは電柱と電気室間の配線など大がかりな工事が必要だが、特別な配線工事なしで手軽にデマンド監視装置を取り付けることができる。例えば、電力計量器とデマンド表示板とが建屋をまたがる場合には特定小電力無線機を利用し、電波が届きにくい地下と地上間などは市販の高速PLCを利用することができる。

3. デマンド計測データの取得やデマンド値を遠隔で設定可能

モバイル通信機((株)NTTドコモ製FOMA)の内蔵機種の場合、デマンドデータ値やデマンド警報を遠隔で取得できる。併せて、デマンド警報レベル値の設定変更が可能で、警報発生時に電子メールであらかじめ取得したアドレス先に警報メールを送信できる。オプションのソフトウェアで取得したデマンドデータから、日負荷曲線、月負荷曲線、年負荷曲線の作成や、帳票作成が可能。

4. 警報時に自動負荷低減制御が可能なデマンド警報出力接点付き

デマンド監視装置本体とデマンド表示板に警報接点端子を装備。デマンド警報発生と同時に、空調機などの負荷を減らす制御を自動的に実施したり、警報に合わせて大形LEDやブザーを鳴らしたりする場合の接続用端子としても利用できる。接点出力の動作モードは3種類あり、ユーザーの目的に合わせて利用できる。

【発売開始時期】 2007年6月1日

【年間販売目標】 初年度2,000台



「デマンド監視装置 RMD501シリーズ」(左)デマンド表示板、
(右)デマンド監視装置本体

3月度電池および器具販売実績（経済産業省機械統計）

（2007年3月）

単位：数量—千個、金額—百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	517,561	70,064	95%	103%	1,405,737	183,540	96%	102%
全電池合計	517,090	69,201	95%	103%	1,404,261	181,100	96%	103%
一次電池計	353,307	11,448	93%	89%	983,936	30,987	96%	95%
マンガン乾電池	49,814	746	97%	101%	139,146	2,005	91%	89%
アルカリ乾電池計	105,500	4,693	91%	84%	272,586	12,072	96%	91%
単 三	64,156	2,499	99%	94%	162,296	6,293	102%	98%
単 四	28,330	1,136	81%	74%	74,755	2,958	91%	88%
その他	13,014	1,058	82%	77%	35,535	2,821	85%	81%
酸化銀電池	75,146	909	97%	106%	208,429	2,513	98%	106%
リチウム電池	106,717	4,245	97%	105%	321,078	12,196	103%	110%
その他の乾電池	16,130	855	64%	52%	42,697	2,201	69%	63%
二次電池計	163,783	57,753	99%	106%	420,325	150,113	96%	104%
鉛電池計	3,345	14,378	92%	101%	9,472	37,832	96%	102%
自動車用	2,331	7,360	93%	108%	6,527	19,774	96%	100%
二輪用	346	718	89%	89%	962	1,996	93%	94%
小形制御弁式	365	771	84%	79%	1,190	2,397	98%	93%
その他	303	5,529	94%	97%	793	13,665	102%	106%
アルカリ電池計	57,069	14,331	93%	126%	145,158	36,408	91%	119%
完全密閉式	23,524	3,199	81%	90%	64,699	9,198	80%	92%
ニッケル水素	33,523	10,552	103%	145%	80,412	26,091	103%	135%
その他のアルカリ電池	22	580	92%	101%	47	1,119	100%	94%
リチウムイオン電池	103,369	29,044	103%	102%	265,695	75,873	99%	100%
器具計（自主統計）	471	863	81%	77%	1,476	2,440	87%	85%
携帯電灯	181	203	80%	60%	624	753	76%	82%
電池器具	290	660	81%	84%	852	1,687	98%	86%

3月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2007年3月）

単位：数量—千個、金額—百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	295,277	36,469	100%	103%	780,444	94,364	98%	104%
一次電池計	147,594	3,423	106%	98%	400,632	9,293	103%	111%
マンガン	33,772	390	94%	93%	91,485	1,039	81%	76%
アルカリ	24,167	392	144%	111%	61,379	1,136	127%	129%
酸化銀	39,833	578	107%	124%	104,664	1,486	106%	121%
リチウム	47,582	2,014	101%	91%	136,398	5,473	111%	115%
空気亜鉛	1,881	29	182%	155%	4,924	75	132%	117%
その他の一次	360	21	137%	79%	1,782	84	329%	165%
二次電池計	147,682	33,046	95%	104%	379,812	85,071	92%	103%
鉛蓄電池	178	1,090	30%	135%	524	2,559	34%	139%
ニカド	19,452	1,900	79%	66%	51,983	5,175	77%	70%
ニッケル鉄	0	1	—	—	2	2	123%	73%
ニッケル水素	17,570	4,224	79%	115%	39,746	10,311	77%	118%
リチウムイオン	94,617	23,161	107%	109%	236,944	59,500	101%	106%
その他の二次	15,867	2,671	81%	83%	50,614	7,524	88%	88%
全電池合計（輸 入）	56,906	7,457	90%	98%	182,982	22,310	95%	110%
一次電池計	48,709	1,228	92%	100%	157,024	3,595	94%	103%
マンガン	6,567	85	53%	45%	16,353	224	39%	39%
アルカリ	33,130	476	114%	99%	112,600	1,547	115%	106%
酸化銀	320	9	67%	87%	562	17	55%	71%
リチウム	7,588	487	89%	100%	22,722	1,399	110%	128%
空気亜鉛	690	24	78%	84%	2,560	91	107%	114%
その他の一次	413	147	28%	420%	2,226	316	77%	115%
二次電池計	8,197	6,229	81%	98%	25,959	18,716	98%	112%
鉛蓄電池	561	1,920	66%	90%	2,003	6,027	81%	102%
ニカド	1,289	375	76%	60%	4,455	1,144	99%	89%
ニッケル鉄	11	25	267%	347%	22	51	51%	81%
その他の二次	6,336	3,909	83%	109%	19,478	11,495	100%	121%